

令和6年度 学校経営計画・学校評価			☑4月4日提出	☑10月3日提出	☑3月14日提出	学校番号	35	梶原	高等学校	課程	全
高知県の教育の基本理念	(1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3) 多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	基本方針	① 予測困難な社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進 ② 多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進 ③ 生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④ 各種施策を総合的・計画的に推進するために必要な基礎的・基盤的な環境・体制等の整備				学校関係者評価				
	【アドミッション・ポリシー】(入学受け入れ方針) ・郷土の自然を愛し、地域に貢献しようとする生徒 ・目的意識を持ち、自らの成長と自己実現に向かって努力を続ける生徒 ・部活動や生徒会活動に積極的に取り組む生徒		【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ・コース別のカリキュラムや習熟度別授業・遠隔授業によって、幅広い進路選択と適性に応じた指導を行う。 ・総合的な探究の時間、対話的な授業、学校行事を通して、探究力・思考力・コミュニケーション力を高める。 ・地域資源や外部人材を活用し、多様で自分の在り方生き方を考えるキャリア教育を行う。				【学力の向上】 評価 【 B 】 先生方はよく頑張っていると思います。意欲や特性など個々に違いがある生徒たちに向き合い、日々努力されていることが頭が下がります。様々な意見があるとは思いますが、信念をもってご指導ください。応援しています。毎日の生活の中に学習時間を確保するためには、保護者も当事者意識をもつようにと、個別に継続的に取り組む必要があるのでは。				
	【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ・地域の伝統と文化を愛し、地域や社会に貢献する志と行動力を持った生徒を育成。 ・自らの進路実現およびキャリア形成に向け、主体的で協働的な学びを続ける生徒を育成。 ・互いの個性を尊重し、豊かな感性と社会性が備わった生徒を育成。						【社会性の育成】 評価 【 B 】 遠く親元から離れて寮生活をしている生徒たちのよりどころは先生方です。いろいろなお子さんのお預りされているので苦労されていることでしょう。時には気分転換を図りながらご勤務ください。				
スクール・ポリシー							【チーム学校】 評価 【 B 】 先生方が協働意識を持ち、魅力ある梶原高校を作ってってください。応援しています。「教職員集団」というイメージが弱い。「組織で仕事をする」という研修はできませんか？いろいろな意見を聞いて学校運営に生かしてください。				

(評価)A: 目標を十分に達成 B: 目標をほぼ達成 C: やや不十分 D: 不十分

			育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
重点項目	学力の向上		★確かな学力 ○基礎的・基本的・発展的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○学びに向かう力、人間性等 ★将来を見通した学び ○将来にわたって学び続ける意欲(学習習慣を含む)	★確かな学力 ○C層以上の生徒の増加 (1)1年:45.0%以上 (2)2年:48.8%→65.0%以上 ○授業外学習時間の増加 (1)県オリジナルアンケート ②→最大値が1時間以上 ★将来を見通した学び ○将来のための勉強をしている生徒の増加 (1)県オリジナルアンケート ④→肯定的回答70%以上	①オリエンテーション等で学ぶ意義や学び方について定期的に指導 ②各教科でICT機器の効果的活用を目指した授業研究 ③基礎力診断テストの分析を授業づくりへ活用。 ④スタディドリルやGoogleworkspaceを活用した自主学習時間の拡張。	★確かな学力 ○C層以上の生徒の増加(4月実施) (1)1年:42.0% (2)2年:48.7% →長期休業中の過ごし方が課題 ○授業外学習時間の増加 (1)県オリジナルアンケート(6月実施) ②→2時間以上 (1年2名、2年3名、3年6名) ★将来を見通した学び ○将来のための勉強をしている生徒の増加 (1)県オリジナルアンケート ④→肯定的回答79.5%	①継続 ②すべての教科及び教員がICT機器を活用できている。→効果的な活用を目指した研究を継続 ③④継続するとともに、長期休業中も含めた授業外学習増加のため、宿題等実施の検討。また、寮補習でスタディサプリを活用	★確かな学力 ○C層以上の生徒の増加 (1)1年:44.0% (2)2年:61.0% ○授業外学習時間の増加 (1)県オリジナルアンケート(12月) ②→2時間以上 (1年0名、2年6名、3年4名) ★将来を見通した学び ○将来のための勉強をしている生徒の増加 (1)県オリジナルアンケート ④→肯定的回答81.3%	目標は一定達成できた。一方で授業から自主学習へのつながりが弱く、自主学習時間が少ない。また、次学年への継続性も課題である。来年度は、目標や取組を継続するとともに、課題克服のための新たな取組を模索する。
			★豊かな心 ○自己存在感、自己有用感、コミュニケーション力、自己決定力等 ★多様性・包摂性 ○キャリアデザイン力(やりぬく力) ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	★豊かな心 ○生活の中の満足度、幸福度の伸長 (1)県オリジナルアンケート ⑧→肯定的回答80%以上 ★多様性・包摂性 ○将来についての見通しを持っている生徒の増加 (1)県オリジナルアンケート ⑩→80%以上	①地域の事業、行事等への参加 ②インターンシップの実施 ③企業訪問、上級学校訪問の実施 ④探究型学習の機会を創出 ⑤ソーシャルトレーニング講座の実施	★豊かな心 ○生活の中の満足度、幸福度の伸長 (1)県オリジナルアンケート ⑧→肯定的回答82.7% ★多様性・包摂性 ○将来についての見通しを持っている生徒の増加 (1)県オリジナルアンケート ⑩→76.3%	①生徒の負担にならないよう取捨選択して参加 ②2年生が夏季休暇中に実施 →来年度の実施のあり方を検討 ③企業別・学校別説明会実施 企業訪問は2年生が修学旅行で実施 ④⑤総合的な探究の時間やLH等での取組継続	★豊かな心 ○生活の中の満足度、幸福度の伸長 (1)県オリジナルアンケート ⑧→肯定的回答77.3% ★多様性・包摂性 ○将来についての見通し (1)県オリジナルアンケート ⑩→78.1%	成果が十分ではなかったので、今年度の各取組の内容を再検討する。また、多様性・包摂性の評価指標を見直すとともに自律心を発揮できる取組を行う。
取組項目	地域協働学習		【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	○地域について未来に伝えていける生徒の増加 (1)県オリジナルアンケート ②④ ○地域資源や外部人材の活用 (1)地域との協働活動を拡充 ※学校魅力化評価アンケートシステム活用	①津野山地域の文化・産業・環境等に関するプロジェクト型学習 ②職業学習や体験・奉仕活動等を通じた、地域振興に関する活動 ③情報発信に関する問題解決型学習	(1)県オリジナルアンケート ②④→肯定的回答66.4% (1)学校魅力化評価アンケート 「地域から大切にされている雰囲気がある」 →肯定的回答85.7%	①総探にて地域学の実施を継続 文化班:神楽で伝承 環境・観光班:千枚田の管理 産業班:町役場観光協会との連携 ②脱藩マラソン運営参加 ③総探PR班:地域みらい留学、インスタ等での情報発信	(1)県オリジナルアンケート ②④→肯定的回答78.5% (1)学校魅力化評価アンケート 「地域から大切にされている雰囲気がある」 →肯定的回答85.7%	来年度も目標や取組を継続。総合的な探究の時間はマンネリ化しないよう、地域資源や外部人材をより活用できる内容や方法を検討する。
			【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付け力の育成	○各教科において言語活動や情報活用能力を育成する場面を意識的に設定した授業 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付け力の育成 (1)「総合的な探究の時間」において各教科の学びが地域課題発見や解決に結びつけている成果物	①言語活動や情報活用能力を設定した授業改善 ②「総合的な探究の時間」で、各教科の学びを結び付ける	○言語活動や情報活用能力育成 各教科・科目でICT活用、ペアワーク、グループワークを実施 ○各教科の学びを課題発見等に結び付ける力の育成 総合的な探究の時間のYELL(各学年)の中間報告会実施	①を継続、ICT活用やグループワークなどの効果的活用の模索 ②総合的な探究の時間のYELL(各学年)と地域学(縦割り)の最終報告会を実施	○言語活動や情報活用能力育成 各教科・科目でICT活用、ペアワーク、グループワークを実施 ○各教科の学びを課題発見等に結び付ける力の育成 総合的な探究の時間の報告会実施	ICTやグループワーク等をより効果的に活用できる授業改善のために校内研修体制を見直す。

			取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
チーム学校	学校の振興		★学校の魅力化 ○特色あるカリキュラム ○特色ある部活動 ○地域との協働的な学び	○特色あるカリキュラム(総合的な探究の時間、遠隔授業等)および部活動等の成果物 ○高校の魅力(特徴的な部活動及び特別活動等)について広報 ○各種課外事業への参加	①総合的な探究の時間、遠隔授業および部活動等、特別活動の充実 ②地域みらい留学を活用した積極的なPR活動。 ③各種ボランティア活動への積極的参加 ④自治体、企業、大学等との連携事業推進	B ○特色あるカリキュラム 総合的な探究の時間中間報告会 遠隔授業(物理・数Ⅲ)補習(前期公務員対策12回)の実施 部活動:アーチェリー部IH出場 ○高校魅力広報 地域みらい留学関係→体験入学参加3名 学校訪問依頼1件入試問い合わせ1件	①継続 ②テーマ別説明会実施 ③脱藩マラソンボランティア参加 ④矢崎総業によるキャリア教育講演会、2年修学旅行での企業訪問実施	B ○特色あるカリキュラム 総合的な探究の時間報告会 遠隔授業(物理・数Ⅲ)補習(公務員対策12+10回)の実施 部活動:アーチェリー部IH出場 ○高校魅力広報 地域みらい留学関係→体験入学参加3名 学校訪問依頼1件入試問い合わせ1件 →A日程他県からの承認願2名	本校の強みの洗い直しや整理整頓を行い、新たな発信方法等を実践するとともに、これらを実現するための校内チーム会を組織する。
			★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	○現状課題 法令遵守の意識や、問題が起こった時の対応力の育成 ○校内研修の実施回数:各学期1回 ○不祥事防止委員会の実施回数:各学期1回	①不注意事案発生の防止 ②ハラスメントについての理解徹底 ③法令遵守の意識現状課題	B ○不祥事防止研修会4回実施 ○不祥事防止委員会4回実施	不祥事防止委員会・研修会を9月～3月に3回実施 ・10月「公文書」12月「交通」 ・2月「ハラスメント」 ・県内不祥事発生時臨時の委員会研修会実施	B ○不祥事防止研修会6回実施 ○不祥事防止委員会7回実施 ○不祥事防止月間研修	今年度行った取組をベースに、取り扱う題材、研修の方法等を含め、次年度の不祥事防止計画を作成する。
	働き方改革		★長時間勤務の解消 ○時間外勤務の減少。年間360時間以内の達成。	○休みやすい環境づくり ○時間外勤務の減少 勤務状況管理 月45時間、年360時間以内 ○ペーパーレス会議の推進	①育休や年休の取得奨励 ②部活動の練習方法や各種会議の見直し ③寮業務の見直し ④ICTを活用した業務改善の取組 ⑤各種会議、行事の見直し、簡素化	C ○時間外勤務の減少 月平均28時間 月45時間以上 5名 ○ペーパーレス会議 職員会等で実施	①一定取得できている。継続して奨励 ②会議の種類・回数が増加しないよう検討 ③町との役割分担等を含めた検討会実施 ④⑤継続	C ○時間外勤務の減少 月平均23時間 月45時間以上 5名 ○ペーパーレス会議 職員会等で実施	時間外労働年間360時間以上が18名中5名(約28%)であった。教員の退勤時間の設定やノー残業デーなどを検討する。